

① 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	たかのす社協つづれこ認知症対応型共同生活介護事業所
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県北秋田市綴子字大堤家後26番地3
記入者名 (管理者)	戸沢 永志
記入日	平成 21 年 8 月 17日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域のボランティア団体の協力を得るなどして、利用者と地域住民との交流が増えるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人の職員全体で全戸訪問活動を実施し必要なサービスの情報を提供したり、必要に応じて介護相談にも対応できるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、それぞれの職員が意識を持ってサービスの質の向上に取り組むことができるよう努めている。また、外部評価結果とホームの実情をすり合わせ、出来るところから改善するよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告など年間計画に沿って会議を開催し、意見や評価を頂くことが出来ている。上げられた意見について、運営者へ報告しサービスの質の向上へ反映させることができています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度に関しては、法人事務局の介護保険担当部署を通して市との連携を密に図っている。また夜間の利用者急変時に備え、市の職員と協議し対応内容を確立することが出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年10月に福祉関係者のための成年後見制度活用講座へ参加し、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つことが出来ている。また、その後職員間でも勉強会を実施しており、制度の理解を図ることが出来ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを整備しており、ホーム内での虐待が発生しないよう努めている。	○	虐待に関する事例集を活用し職員間で勉強会を行い、虐待に対する職員の意識を高める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、文書と口頭で説明を行い質問等を聴き十分に理解して頂けるよう努めている。また解約前には、退居後の利用者の生活に不安がないよう居宅介護支援事業所や転居先の関係者と連携を図るなど、必要な支援を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が利用者との日常の関わりの中で、何気ない会話から不満や要望などをくみ取るよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム全体の様子や職員の異動について、ホーム便りで定期的に家族へ伝えている。また利用者の健康状態については、面会時に伝えたり必要に応じて電話連絡をしている。金銭管理について毎月、金銭管理明細表を各家族へ送付して報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等を受け付ける窓口について記載している他、建物内にも掲示している。また、面会時にも話して頂けるよう努めている。意見箱の設置も行っている。苦情があった場合には、職員間で話し合うと共に法人内の会議でも話し合い改善に繋がるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回管理者が職員を対象に面接を行い、個別に意見などを聴き、それを運営者へ報告し反映されるようにしている。またミーティングでも話しやすい雰囲気となるように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事など状況に応じて必要な人数の職員を確保する事が出来るよう勤務の調整に努めている。また利用者が入院した際に、家族の状況を考慮し一時的に職員が入院の付添を行ったケースもある。	○ 夜間帯に職員が1人勤務となることから、今後は夜勤者の他に宿直者も配置することとなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職する職員は少なく、異動も必要最小限となっている。また、採用された職員については事前に研修を受けており、利用者へ与えるダメージを防ぐよう努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内や事業所内での研修を計画的に実施している。また経験年数などに応じて、認知症介護に関する研修を受講できるよう機会を確保している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の各地域にある法人内の事業所を互いに訪問する機会を持ったり、頻度は少ないが法人内のグループホーム間で勉強会を実施している。</p>	○	<p>法人外の事業所との交流も図り、サービスの質の向上に繋げたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職員に業務上の悩みがある場合には気軽に相談できるよう努めている。また職員が家庭と仕事を両立できるよう、可能な限り勤務に配慮している。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得や勤務年数といった条件を満たしている臨時職員に対し、正職員への登用の機会を確保するなど、各職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用希望理由などを担当ケアマネジャーを通して把握したり、利用前には本人から話を聴き、本人について理解するよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネジャーを通して家族の状況を把握している。また利用前には、話をする機会を持ち不安なくサービスを利用することが出来るよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合には、居宅介護支援事業所などと連携を図りながら、必要なサービスが利用できるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に不安を感じている方に対しては、職員やホーム利用者と馴染めるよう利用前に何度かホームへ来て頂くようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活している雰囲気となるよう、同じ食卓を囲むなど可能な限り職員は利用者の傍で過ごすように努めている。また、ホームに畑があるので、利用者と職員と一緒に野菜を収穫して楽しむことが出来ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の受診へ職員と家族と一緒に同行したり、ホーム行事へ家族の参加を促すなど、利用者を家族とホームが協働して支えるかたちとなるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム利用前の利用者と家族の関心に配慮し、面会時などに気持ち良く会えるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が兄弟や昔馴染みとの関係を可能な限り継続できるよう、家族と話し合いながら支援している。面会頻度の少ない家族には、利用者本人と電話や手紙を通して関係を保てるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士が過ごせるように環境を整えている。また利用者同士が声を掛け合ったり働き掛け合う場面が、日常的に見られる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期の入院や転居によりホームを退居した場合であっても、必要に応じて関係者に情報提供するなど利用者本人の支えとなるよう努めている。また利用者や家族へも、気軽に相談していただけるよう声を掛けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から利用者の希望や願いを把握するように努めている。本人からの確認が困難な場合には、面会時などに家族から聴き利用者本位となるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から聴き、個人史を作成し楽しみ事などの把握に努めている。またセンター方式の一部を活用し、ホーム利用までの経緯を記録している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の経過記録を基に、利用者個々の出来る事出来ない事の把握に努め日常の活動に繋がるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、職員間でカンファレンスを行い職員の意見などを介護計画書に盛り込むようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回は見直しを行うようにしており、期間内であっても必要がある場合には計画の変更をしている。また、定期的にモニタリングを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を経過記録に記入している。また、ケアのアイデアについて、実践してその結果どうであったか記し、継続して実践可能なものであれば計画書に盛り込むようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されていることから、合同の行事を実施している。また看護師を配置し医療連携体制を取っており、看取りを実施したケースもある。その他、利用者入院時の必要物品の手配や社会生活上必要な手続きなど可能な限り対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	利用者が急変した際の対応について、消防や医療機関から助言を得ることが出来たり、ボランティアの慰問があるなど地域資源の協力を得ながら利用者への支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望や必要によって利用者が他のサービスを受ける場合には、地域のケアマネジャーや事業者と連携を図り、利用者が円滑にサービス利用ができるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが含まれた市の担当職員が運営推進会議のメンバーになっており、協働できる体制にある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者と情報交換をする場を確保していると共に、移り住んだ後もいつでも相談して頂けるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室へ入る際に声を掛けるなど日常的にプライバシーを守るよう努めている。またその人が望む呼び方で声を掛けたり、利用者それぞれに合った言葉遣いをするようにしている。個人情報について、利用者の支援に必要な情報以外は、他へ漏れることがないよう管理を徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の何気ない会話の中から思いや希望をくみ取り、それを可能な限り実施出来るよう努めている。また着る服を自分で選んで頂くなど利用者個々の力に応じて自分で決められるようにしたり、残っている力を発揮できるような場面を作っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中でそれぞれが楽しみ事を持つよう支援している。またホームの生活が、画一的であったり制限があったりしないよう努めている。	○	職員の勤務体制によって利用者の生活が左右されないよう、勤務作成時に配慮したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の能力に応じ、着る服を自分で選んで頂くなど本人や家族の望む衣服で過ごして頂いている。理美容店についても行きつけの所があれば、そこを利用できるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解もあって利用者本人がお金を所持されている方が数名いる。	○	今までは、利用者が金銭を所持していることで起こった問題はない。今後、金銭トラブルも考えられるので予防のための対応策の検討が必要である。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近所を散歩したり、ドライブや買い物・地域の行事へ参加するなど日常的に出掛けられるようにしている。愛犬会に行きたいなどその時々希望にも可能な限り応じられるよう努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせた行事を企画し、利用者みんなで出掛けて楽しめるようにしている。また家族の支援で、温泉へ出掛けている利用者もいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方に住んでいるなど、なかなか会いに来られないケースや、随時の訴えがある場合など電話の利用を支援したり、手紙のやり取りが行えるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人・馴染みの方の面会がある。その際には、ゆっくりと面会が出来るよう居室など本人や面会者の希望するところで過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準に沿った身体拘束廃止マニュアルを作成しており、実践している。	○	職員間で年に1回は勉強会を行い、身体拘束に関する意識を常に持てるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	実施している。例えば、ホームには急な階段があるがそこを鍵を掛けて通れないようにするのではなく、利用者が一人で行こうとした時に職員が付き添えるよう階段の手前にセンサーを設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム内は、全体を見渡すことが出来る造りとなっており利用者の様子を把握しやすくなっている。また歩行状態が不安定な利用者が、居室に一人で居ても、歩行時に職員が対応できるようセンサーを置いたり家具の配置を工夫し安全に過ごせるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手に触れたり飲み込むと危険な薬品については、管理を徹底している。包丁やはさみなどの刃物は、職員と一緒に使うことで危険のないようにしており、保管は利用者の目の触れない場所にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の見守りが不十分となる時間帯や居室について、利用者個々の状態に合わせて福祉用具を活用したり、環境を整えるなど具体的に取り組んでいる。服薬について、マニュアルを作成しており、それに沿ったケアを実践している。またヒヤリハット報告がある場合には、職員間で話しあい対応策を共通認識できるようにしている。	○	ホームの設備に即した具体的な火災予防策について、消防より助言を受ける。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	職員は、平成19年に救急救命の講習を受講している。今年度も実施する予定となっている。また職員間でも、骨折など利用者が急変した際の対応について、年に1回は勉強会を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回デイサービスと合同の避難訓練を実施しており、内1回は消防署や地域の方にも参加して頂くようにしている。また緊急連絡網には、地域の方も位置づけてあり協力を得る事ができるようになっている。	○	夜間の災害発生時の対応について、消防より具体的な助言を受ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族やかかりつけ医と相談し、利用者の現状を踏まえ食事や楽しみ事など、可能な限り制限なく生活を送ることができるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと日常的な観察で、体調の変化を早期に発見出来るよう努めている。変化や異変があった際には、迅速に看護師やかかりつけ医の指示を受け対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者の服薬内容をすぐに確認することができるようになっており持病と共に把握に努めている。内服薬の変更や随時の処方があった場合には、申し送りや記録から職員が内容を共有することが出来るようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者個々の好みに配慮して便秘予防に繋がる飲み物の提供や水分摂取を促している。また個々の体力に応じ、散歩などを通して無理なく身体を動かせるよう支援している。どうしても便秘傾向にある利用者については、かかりつけ医と相談し下剤の服用を最小限で行って頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや入れ歯洗浄・歯磨きを行えるように努めている。また口腔内の健康状態に問題がないか歯科の検診も行えるように支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食のメニューを栄養士が立てている。それに合わせてバランスを考慮し、朝食と夕食のメニューをホーム職員で立てている。食事摂取量や水分摂取量について、1日を通して把握しており必要な支援を行うことができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防に関するマニュアルを整備しており手洗いうがいといった基本的な予防策を日々実行している。発生時にはそれに沿った対応を実施している。また、法人内に感染症対策委員会が設置されており、指示を得ることが出来る。インフルエンザ対策については、利用者だけでなく全職員もワクチン接種をするようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、1日に1回乾燥機での消毒を行っている。まな板や布巾などの調理用具の消毒も毎日実施している。食材については、鮮度や賞味期限を確認しており、調理時に加熱が必要な物は85℃以上となるよう温度計を使って確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花々を植えている。またホームのある建物内には地域の集会所が備わっており近隣住民や利用者家族が入りやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームフロアや各居室に花を飾っており、季節を感じられるようになっている。また随時換気をしたり消臭剤を活用し心地良く過ごせるように努めている。	○	ホーム内は利用者の生活の場であるため、ホームフロア内には利用者の生活に関係のない資料などは置かないようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子だけでなく、移動式の畳スペースを設置しておりそれぞれの利用者が居心地の良い所で過ごすことが出来るよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは事業所の備え付けの物がある。その他、本人が必要とするテーブルやタ ンス・テレビなどを持ち込まれている。居室 内のレイアウトについては、本人や家族と相 談して行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	随時換気を行っており、極端な温度差が生じ ないように配慮している。利用者の手足の冷た さや温かさに合わせての温度調節も行ってい る。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	キッチンが車いすでも利用できる造りになっ ていたり、フロアの随所に手すりが設置され ているなどホーム全体がバリアフリーとなっ ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	見やすい大きな時計や暦を設置し、トイレな どに分かりやすく大きな字で印を付け、間違 いや混乱が起きないように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外周は歩きやすくなっており、ホーム のベランダに物干しを設置して利用者が活用 できるようにしている。また建物の敷地内に 畑があり、野菜を植えて利用者が楽しめるよ うにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①ホーム1階部分に法人内のデイサービスがあることで、利用者はホーム利用者以外の同年代の方や昔馴染みと気軽に交流することができる。
- ②当ホームは、入居定員が8名となっている。それに対し看護師も含め10名の職員体制となっており、利用者一人ひとりに手厚い関わりを持つことができる。
- ③出来るだけ地域の行事へ参加したり、ホームの近所の散歩、地域の理容店の活用などを通して利用者と地域住民との関わりが広がるように取り組んでいる。
- ④それぞれの利用者が、持っている力を発揮できるよう楽しみ事や日常的に役割をもち生活を送ることが出来るように取り組んでいる。
- ⑤看取りについて指針を定めており、終末期にある人数など対応可能な範囲内で看取りを行う事が出来る体制となっており実際に看取りを実施したケースもある。